

(3) 年齢別人口

— 人口の高齢化がさらに進む —

令和2年の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が11,065人（全人口に占める割合13.8%）、15～64歳の生産年齢人口が46,950人（同58.7%）、65歳以上の高齢人口は22,021人（同27.5%）となっています。これを平成27年の年齢3区分別人口構成比と比較すると年少人口では、14.0%から13.8%と0.2ポイント低くなり、生産年齢人口は59.7%から58.7%と1.0ポイント低くなり、逆に高齢人口は、25.7%から27.5%と1.8ポイント高くなっています。

また、年齢構造指数を見ると、年少人口指数は23.6、老年人口指数は46.9、従属人口指数は70.5、老年化指数は199.0になっており、本市では高齢化社会へゆるやかに移行しているといえます。

図4．年齢3区分別人口の推移
(平成2年～令和2年)

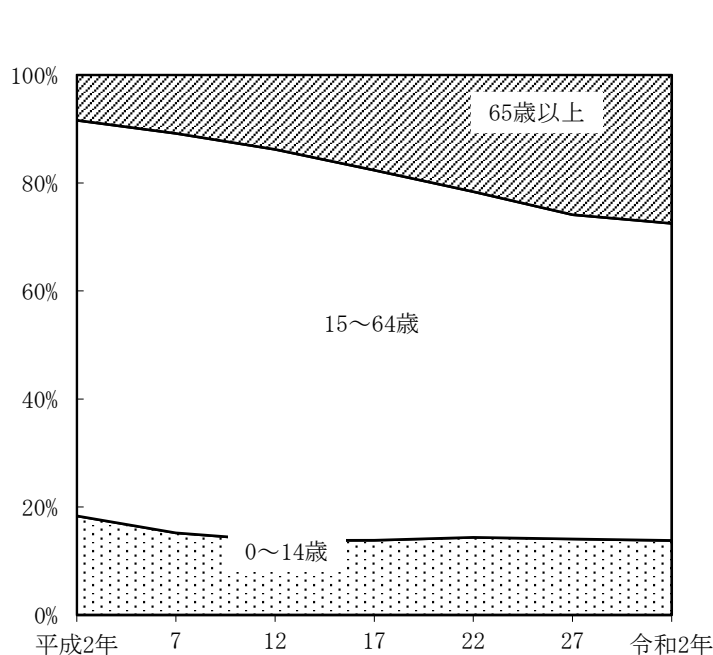


図5．年齢構造指数の推移
(平成2年～令和2年)

